

8月23日 土曜日
2003年(平成15年)
PM 6:00

木内監督 ラスト甲子園飾る

常総初優勝

第35回全国高校野球選手権大会

常総学院(茨城)が4対2で東北(宮城)を下し、初優勝を飾った。常総学院は16年ぶり2度目の決勝進出で、悲願を達成。茨城県勢の優勝は84年の取手二以来、19年ぶり2度目。常総学院はセンバツでは01年に優勝している。勇退を表明している木内幸男監督(72)は、三塁側アルプス席から沸き起こった「木内コール」に乗って3度胴上げされた。

常総学院は2点を追う4回1死二、三塁から内野ゴロでまず1点。さらに連続長打で計3点を奪い、逆転した。8回の1点も効果的で、2番手の飯島がこのリードを守った。

東北は2回、3連続二塁打で2点を先行したが、その後は飯島の前に決定打が出ず、深紅の優勝旗初の『白河の関越え』には、あと一歩及ばなかった。

◆木内幸男・常総学院監督の話
「神様、飯島様でした。投手起用が外れたが、(2番手の)飯島に救われた。選手たちは力以上によくやってくれた。胴上げされるのは夢にも思わなかった。私のため甲子園はどうでもよく、甲子園は子どもたちを野球でも人間でも一人前にする場所だ」



写真＝胴上げされる常総学院の木内幸男監督 (写真右) 松林主将 (右) からウイニングボールを受け取る常総学院の木内監督



写真＝優勝で勇退の花道を飾り、甲子園を去る常総学院の木内監督 (写真右) 初優勝を決め飯島投手(左から2人目)のもとに駆け寄る常総学院ライン